

# 明日の力は市民の力

## 14. 誰もが健康で心豊かに文化・スポーツにふれあえるまち

(質問数11-18)

2023年 6月定例会	保健福祉	議案外	西山	介護予防事業について (1) ますます元気教室について (2) いきいき百歳体操について	<p>(1) 現在の実施状況、令和4年度の参加者数は市全体で1825人。教室は各区の会場単位で実施している。6日間を1コースとして原則年間3コースを開催。会場については、市内の各公民館のほかコミュニティセンター、高齢者福祉施設、自治会館、小学校などを使用している。教室の講師について、一般競争入札により業務を委託したNPO法人、スポーツクラブ、スポーツ等の管理会社などに所属する介護予防運動指導員、それから健康運動指導士などの有資格者が担当している。本教室については、地域の高齢者の介護予防のきっかけづくりとして一定の成果を得ている。今年度からより多くの会場確保に努め、また市報の区版、それから公民館だよりなどを活用して教室の周知を図ることにより、より多くの方に参加いただけるよう努めていきたい。</p> <p>(2) 埼玉県理学療法士会、それから地域包括支援センター、区の高齢介護課が連携をして地域で体操の普及活動を担う介護予防のボランティアいきいきサポーター、そういった養成を開始した。養成したボランティアが体操活動の立ち上げ、体操指導などを行う体制を構築し、地域づくりによる介護予防活動の中心となっている。</p>
2023年 9月定例会	本会議	一般質問	堤	介護予防事業の拡充について (1) いきいき百歳体操の成果 (2) 自主グループに対する支援や民生委員による勧誘の強化について	<p>(1) 参加者に好評である。いきいき百歳体操は、高齢者の健康寿命の延伸に向けた介護予防による地域づくりに一定の成果を上げているものと認識している。</p> <p>(2) 実際に各地域で活動いただく際に、必要に応じて担当の理学療法士が体操指導や自主グループの活動計画等に関する相談に対応している。また、活動開始から一定期間が経過した後に、体操指導の復習とともに地域活動の困り事や悩みを伺う機会を設けるなど、フォローアップの研修を継続的に開催している。さらに、地域支え合い推進員が自主グループの運営に関する相談対応及び理学療法士や区役所との調整を行うなど様々な支援を行っている。いきいき百歳体操の取組開始直後から民生委員の皆様にも周知を図っている。今後も民生委員の皆様にも協力をお願いをしていきたい。高齢者サロンや体操を行う会場探しに関する支援について、地域支え合い推進員やいきいきサポーターと協働し、会場の確保の支援に努めていく。</p>
2023年 12月定例会	本会議	一般質問	永井	(1) 大宮盆栽美術館姉妹館締結をきっかけにオーストラリア・キャンベラとパートナーシップ都市について	<p>(1) 大宮盆栽美術館とキャンベラ樹木園との交流をきっかけに、姉妹館同士の交流にとどまることなく、両都市間において、教育とか文化、スポーツ、経済など特定の分野での交流が深まり、相互の機運醸成が図られた際には、パートナーシップ都市の締結についても具体的に検討していきたい。</p>
2023年 12月定例会	本会議	一般質問	松本	文化財保護について (1) 文化財の保護と土器の館について	<p>(1) 教育委員会は、発掘調査が円滑に実施できるよう調整を行うとともに、出土品の保管と活用を行っている。出土品は膨大であるため、その保管場所を確保することは喫緊の課題となっている。出土品に限らず、文化財資料は年々増加していくことから、新たな収蔵場所については、現在検討している。</p>

2023年 12月定例会	文教	議案外	三神	(1) 3Dデータによる文化財の保存について (2) メタバースを用いた文化財の活用	(1) 3Dデータ化には、インターネットを通じてより多くの方々に文化財と接する機会を提供することができるなどの利点もあるが、現時点では、文化財紹介のホームページでも二次元的な画像データの利用にとどまっていて、文化財の3Dデータの作成や公開は実施できていない。今後、先行事例について調査を進め、さいたま市の文化財に適した3Dデータの作成方法や、3Dデータによる文化財保存について検討をしていく。  (2) 文化財保護課では、さいたま市文化財保存活用地域計画の策定を進めている。この計画では、さいたま市における文化財の特徴をまとめるとともに、現状の課題を抽出し、文化財の保存と活用の方針を定め、今後実施をしていく具体的な取組等を示していく計画である。
2024年 2月定例会	本会議	代表質問	阪本	国際芸術祭2023の総括と今後の課題、レガシーについて	「市民プロジェクトへの参加をきっかけに国際芸術祭を知り、様々なプログラムに参加した」との市民の声もあるので、今後もより多様なプログラムの展開によって、更なる拡充に努めていきたい。文化振興事業団については、文化芸術都市創造に向けた計画の主要な推進主体に位置付けており、アーツカウンシルの事務局を担うことを通じて、機能強化を図っていくことで、本市の文化水準の底上げにつながり、将来的には、国際芸術祭の主要な役割を担っていくことを考えている。アーツカウンシルについては、芸術祭に直接関わるのではなく、国際芸術祭のレガシーの継承・発展や、アーティスト支援等を通じて、市民が日常において文化芸術に触れる機会を創出することで、文化芸術のすそ野の拡大を担うことを期待している。「共につくる、参加する」市民参加型の芸術祭として、市民プロジェクトは非常に重要であり、アートプロジェクトとともに一体的に展開していくことが、本芸術祭の特徴である。今後も、各回のコンセプトをしっかりと踏まえた上で、それぞれの意向を尊重しつつ、国際芸術祭の開催目的の実現に向けて連携の強化を図っていきたい。ディレクターの公募については、若手のディレクターを採用することも視野に入れ、広く企画提案方式により公募していくこととしている。国際芸術祭の開催趣旨を大切にしながら、事務局を担う市及び文化振興事業団を中心に経験や知識を若い世代に継承し、より多くの皆様に愛される国際芸術祭を目指していく。
2024年 2月定例会	文教	議案外	三神	さいたまマラソンについて (1) さいたまスーパーアリーナ内の運営について (2) コース上の運営について (3) 全体の運営について	(1) (2) 屋内での着替えや待機が可能だったこと、アリーナ施設内でサイドイベントを開催した点のほか、昨年度のランフェスから実施しているプレミアムランナーやビギナーサポートに対して、非常に参加された多くの方々から高評価を得たところ。ランニングポータルサイト、RUNNETの方へ多くのランナーから高評価の書き込みをいただいているということは認識をしている。一方、会場内の動線や荷物預かりにおいては、非常に分かりづらい、時間がかかったというような意見を会場内でもいただいていることを認識している。特にトイレ数については、改善をしていきたい。ホスピタリティ、また記念品等も含めて、フィニッシュタオルがなかったというような意見も含め、ランナー目線で改善に向けた検討を行っていければ。次の大会に向けて給食等の配置を検討して、ランナーの方に喜んでいただける配置のほうを検討していきたい。閉門の閉鎖時刻について、市民生活への影響等を考慮すると、すぐに時間を延ばしたいということで調整するのはちょっと難しいが、できるだけ多くのランナーがゴールをできるようにということで検討をしていきたい。

					(3) 大会に協力いただくボランティアの方々については、基本的には公募によりお願いをしている。何より円滑な大会を進める上では、多くのボランティアの方々に参加をいただくということが非常に重要。今後も多くの方にランナーを支える立場から自発的に参加いただける大会となるよう、周知や研修会等をしっかりと実施しながら理解いただけるよう努めていきたい。
2024年 6月定例会	本会議	一般質問	相川	文化芸術都市創造計画について (1) 文化芸術基本法にある多様な分野との文化芸術との連携について (2) 公共空間、まちづくりのアートスタイルについて	(1) 文化芸術を支援する専門組織であるアーツカウンシルさいたまとともに、多様な分野と文化芸術との連携を図っていきたい。 (2) さいたま国際芸術祭のレガシーとして、プラザウエストや南区の花と緑の散歩道などの公共空間に作品を展示している。町なかで文化芸術活動を展開することを希望する市民等に対しては、アーツカウンシルさいたまによる相談やマッチングを行うなど、市内文化芸術活動の活性化に取り組んでいるので、アーツカウンシルさいたまの相談窓口をぜひ活用していただきたい。今後も市民の皆様が公共空間や町なか等の身近な場所で気軽に文化芸術に触れることができる環境づくりに努めていく。
2024年 6月定例会	まちづくり	議案外	阪本	ドッグランについて	現在市内における公園内のドッグランについては、緑区の大間木公園、新見沼大橋スポーツ広場の2か所。今後の公園内のドッグランの整備については、具体的な計画はないが、地元からのニーズがあれば設置を検討していきたい。今後新たに設置する場合のドッグランの有料化という点については、彩湖・道満グリーンパークといった他自治体の事例、また民間施設の事例を参考にしながら、料金設定については研究していくとともに、指定管理者による自主事業等において、より高品質な管理運営が期待されるので、研究していきたい。
2024年 9月定例会	文教	議案外	三神	渋沢栄一の肖像が描かれた新一万円札の発行に当たって (1) これまでの取り組み (2) 今後に向けて	(1) 教育委員会としては、渋沢栄一の肖像が描かれた新1万円の発行に当たって実施したイベント等は特にない。 (2) 大正5年(1916年)に建てられた当時の浦和町公会堂、通称恭慶館。渋沢栄一揮毫の額は令和3年度に市民に公開し、現在浦和博物館で所蔵している。映像資料の活用については、相手方と丁寧にやり取りを行い、渋沢栄一揮毫の額を展示するとともに、映像を活用する方策も含め検討していく。
2024年 9月定例会	文教	議案外	三神	より身近な美術館、博物館にむけて (1) ボランティアの関わり (2) 学芸員によるギャラリートークや展示解説	(1) 教育育成活動の一環として、大宮盆栽美術館において、展示ツアーガイドを毎週月曜日、土曜日、日曜日に開催しているほか、校外学習の受入れやワークショップ、さいたま国際盆栽アカデミーの補助等を行っている。岩槻人形博物館においては、校外学習の受入れや常設展示の展示解説を行っているほか、ワークショップや講座、講演会の補助等を行っている。漫画会館においては、ギャラリートーク、イベント時の来館者サポートを行っている。今後も研修等を通じて学習機会を提供し様々な活動に協力いただき、来館促進にもつなげていきたい。浦和美術館では、多世代交流ワークショップや展覧会鑑賞後に自由な創作ができる夏の創作コーナーなど市民参加、体験の場を設けている。今後は創作コーナーでのボランティアの復活や多世代間イベントでの活動支援ボランティアについて積極的に検討していく。博物館では、市立博物館浦和くらしの博物館民家園、与野郷土資料館において、公募による市民

				<p>ボランティアに一定の研修を実施し、てんびん棒やしよいこ等を使った体験学習や主催講座などの指導者等として参画している。市立博物館では、市立高校の生徒によるボランティアの受入れも行っている。ボランティアの高校生が夏休み子ども博物館の体験講座において、子どもと触れ合いながら、講師のサポートを行い、キャリア教育の一環となるよう努めている。今後も様々な場面における多様な世代のボランティア活動を推進し、身近な美術館・博物館を目指している。</p> <p>(2) 浦和美術館では、年3回の各展覧会で学芸員が展示室内で作品解説を行うギャラリートークを実施している。より多くの方に参加してもらえよう週休日や夜間での実施や他の美術館の学芸員を招いての専門ギャラリートークなど、展覧会の内容やニーズに応じて実施している。個別対応については、予定した日時でのギャラリートークのほか、公民館や学校などのグループ鑑賞等個別に相談を受けて日程調整し、対応している。参加者から好評をいただいた。博物館では、春に開催する企画展及び秋に開催する特別展において、学芸員による展示解説を実施している。この展示解説では、その場で参加者から質問を受け、学芸員が答える形式を取っていて、好評である。今後も個別対応については、事前に連絡をいただいたうえで、日程を調整し、市民の要望に応えられるよう努めていく。</p>
--	--	--	--	---